

みんなで「かくれんぼ」をしよう！

——一人ひとりが主人公、充実できる楽しい活動をふくらませながら共感し合える集団づくりを——

構成・文・写真 竹川幸介（神戸大学附属特別支援学校）

■はじめに

今回は、特別支援学校の取り組みの中から、学級活動で取り組んだ「かくれんぼ」の活動を紹介します。

■配慮を要する点

- ・ 一言言葉がわかり、簡単なゲームのルールが理解できる発達段階の子ども達であることが前提です。（実際の実践では2～6歳の発達段階の集団で取り組みました。集団の中には発語のない子どももいましたが、身振り等も使いながら全員が一定文脈のあるやり取りが可能な実態でした。）

■活動内容（活動の進め方）

- ・ 大まかな活動内容は、基本には一般的な鬼ごっこと同じです。1人の鬼が他の隠れた子どもを捜しに行くというものです。ただし、見つかった子どもは、そのまま鬼と合流して一緒にまだ見つからない友達を探します。（鬼の数がだんだん増えていきます。）全員が見つかるか、鬼が降参した時点で終了です。

【①ルール説明】

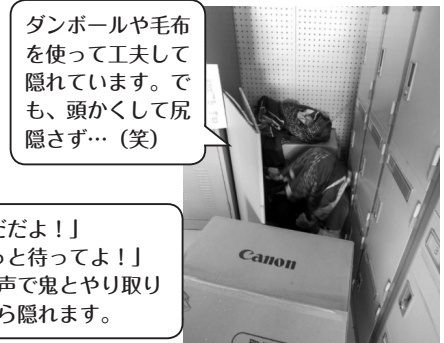
- ・ まず、はじめに全員でルールを確認します。誰が鬼をやるか、隠れる範囲はどこまでか等を確認します。基本的に鬼は教師が担います。
- ・ 隠れる場所の範囲については、「今日はどこでやる？」と子ども達に聞きながらみんなの話し合いで決めます。鬼の声が全体に届く範囲であることが大切です。広すぎず狭すぎないよう、教師が調整しながら決定します。「トイレに隠れるのは禁止」等、隠れてはいけない場所、危ない場所などは、事前に子ども達と確認しておきます。



★全体としてのポイント★ かくれんぼを成立させるためには、教師が場を演出して盛り上げることが大切です。そのためにも「鬼」は教師が担う方が良いでしょう。また、教師がかくれんぼの醍醐味（それぞれの場面んの醍醐味については後述）を理解している必要があります。それを踏まえて、それぞれの子どもがどこに手応えを感じているのかの見極めながらゲームを盛り上げます。

【②ゲームスタート！】

- ・ いよいよ、スタートです。鬼が大きな声でカウントをする間に、他の子どもや先生は各々隠れる場所を探して散らばっていきます。
- ・ 隠れるときには、隠れる場所を考えたり小道具をうまく使ったりしながら工夫して隠れるのも楽しみの一つです。自分で考えることが難しい子どもには教師がやり方を見せたりしながら、一緒に面白い隠れ方を見つけていきます。



「まーただよ！」「ちょっと待ってよ！」大きな声で鬼とやり取りしながら隠れます。

【③鬼が探しに来る…!!】

- ・ 隠れ終えると、隠れた側は「もーいーよー！」と鬼を呼びます。それに応えて鬼は「よし探しに行くぞ！」と大きな声で宣言し、隠れた子ども達を探しに行きます。

●かくれんぼの醍醐味

子ども達にとってのかくれんぼの醍醐味は、なんとといっても「人から注目される」ということです。誰かが自分のために一生懸命になっているということに子ども達は心をゆすぶられます。自分がその場の主人公であるという思いをたっぷり味わってほしい場面です。

認識の高い子どもにとっては、「先生をだます、困らせる」という面白さもあります。子どもたちはそれぞれなりに「こんなところに隠れたら気づかないはず…」と予想を立てながら隠れています。それが思い通りにいき、先生や友達が困っている様子を見せると「してやったり！」と楽しさを感じるようです。

★探す時のポイント★ 隠れている子ども達に鬼が探しに来ている様子が伝わるように、鬼は出来るだけ派手に演技をしながら動き回ります。大きな足音を鳴らしたり、わざと間違った場所を探したり、大きさに悔しがって見せたりと場を演出します。

★隠れる時のポイント★ 子ども達と一緒に隠れる教師は、鬼が探しに来るまでの間、子ども達とやり取りしながら待ちます。「鬼、今どこまできてる?」「うわ～、もうすぐそばまで来た！」などと話してドキドキを共有したり、鬼が探す様子を物陰からこっそり一緒に覗いたりして楽しめます。

「先生はここに隠れるから、君が鬼に見つかっても絶対教えないでね」などと秘密を作って共有したり、見つかる時に「わっ!!」と鬼を驚かせたりするやり取りもワクワクが膨らみます。

どこに隠れたかな～?
あの、積み上がったブロックの後ろが怪しい…



わあ～!
鬼がすぐそこまで探しに来た…!
ドキドキ…!

【④鬼に見つかる!・みんなを見つける!】

- ・ 鬼は一人ずつ順番に子どもを見つけていきます。じっと待つことが苦手だったり、はやく見つけて欲しかったりする子どもは、早い段階で見つけるように配慮します。(その後、鬼と一緒に友達を探す中でかくれんぼの醍醐味がわかってゆき、隠れ方も変化していきます)

●見つかる・見つけるときの醍醐味

鬼に見つかる場面は、声を殺して隠れ続けていた緊張感から解放されて、「ああよかった!見つけてもらった」と肩の力が抜ける楽しい瞬間です。ゲームの中でも一区切りつく場面なので、納得して終われるように配慮が必要です。「こんなに上手に隠れていたんだね。」と共感しながら、楽しさを味わってもらいたいと思います。

認識の高い生徒は、「見つけて欲しい」だけでなく「鬼を降参させたい」「最後まで隠れて、みんなから褒めてもらいたい」ということに手応えを感じて取り組みます。すぐに見つけてしまうのではなく、たっぷり焦らしたり、見つけた時に派手に驚いたりといった演出も大事です。

見つけた後は鬼と一緒に探す中で、友達の隠れ方を見て、「よし、次は僕もこんな風に隠れるぞ」と自分なりに考えることも楽しみの一つです。

★見つける時のポイント★ 共感を創り出す上では、鬼が見つけたときにどんなやり取りをするかが大切です。実践では、見つけた人をみんなで指差して「○○ちゃんみつけた!」と声を揃えて言うやり取りを入れました。見つけた子どもは友達や先生から指を刺されて注目されると、とても嬉しそう(恥ずかしそうな)良い表情を見せます。見つける場面では、そのような見つけた後の「余韻」をどう作り出すかがとても大切なポイントです。

みんなで「かくれんぼ」をしよう！



みんなで探すよ～
この部屋にはいる
かな？



見つかった～

「ばあっ！」
我慢できずに、飛
び出しちゃった！



みんなで一緒
に、「〇〇君、
みーつけた！」

見つかったけど、なか
なか出てこない人も…



1番最後に見
つかりたかっ
たのに！
悔しい！

【⑤みんなで振り返る】

- ・全員が見つかったら、一度みんなで集まってゲームを振り返り、締めくくりとします。「〇〇くんは、こんなふうに隠れていたよ」などと、それぞれの頑張った場面を紹介するなどしながら、楽しんだ思いを全体で共有します。
- ・毎回は難しいですが、自分や友達が見えている様子を動画に撮ってみんなで見ながら振り返るのも面白い。「自分はこんな風に隠れていたのか」とそれぞれなりに自分の隠れ方を捉え直し、次の取り組みでは隠れ方が少し変化します。

■最後に

実際の実践の中では、様々な場面で、子ども達の「集団を見る目」が変化していく様子を感じることができました。今までみんなの中では発言できなかった子が朝の会で「今日はかくれんぼしたい！」と大きな声でリクエストするようになったり、自分勝手な行動が多かった子が、鬼に見つかってしまった悔しい思いを手紙にしてみんなの前で「次はもっと上手く隠りたい」と発表したりと、それぞれが集団を意識するようになっていったように思います。

「かくれんぼ」は、ゲームの形としては、教師との1対1でのやり取りが多く自己完結型の遊びなのですが、一人ひとりが主人公であり充実できるということが集団づくりではまず大切であったと感じます。その上で、適度に友達集団に目を向ける場面もあり、ゆるやかに集団を感じながら人との共感を深めていくには良い教材であったと感じます。